

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 12年2月) ～コア CPI 上昇率は5ヵ月ぶりのプラス

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI は市場予想を上回り5ヵ月ぶりのプラス

総務省が3月30日に公表した消費者物価指数によると、12年2月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比0.1%（1月：同▲0.1%）と5ヵ月ぶりのプラスとなり、事前の市場予想（QUICK 集計：▲0.1%、当社予想も▲0.1%）を大きく上回った。

大幅な下落が続いていたテレビが新製品投入の影響から1月の前年比▲36.1%から同0.5%とプラスに転じたことがプラス転化の主因である。テレビだけでコア CPI 上昇率は前月よりも0.3ポイント程度押し上げられた。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.6%（1月：同▲0.9%）、総合は0.3%（1月：同0.1%）であった。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合
10年 10月	0.2	▲0.6	▲0.8	0.3	▲0.5	▲0.6
11月	0.1	▲0.5	▲0.9	0.2	▲0.5	▲0.6
12月	0.0	▲0.4	▲0.7	▲0.1	▲0.4	▲0.5
11年 1月	▲0.6	▲0.8	▲1.3	▲0.5	▲0.8	▲1.0
2月	▲0.5	▲0.8	▲1.3	▲0.5	▲0.8	▲0.9
3月	▲0.5	▲0.7	▲1.4	▲0.7	▲0.8	▲1.0
4月	▲0.4	▲0.2	▲1.1	▲0.7	▲0.5	▲1.0
5月	▲0.4	▲0.1	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.6
6月	▲0.4	▲0.2	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.7
7月	0.2	0.1	▲0.5	0.1	▲0.1	▲0.4
8月	0.2	0.2	▲0.5	▲0.2	▲0.2	▲0.6
9月	0.0	0.2	▲0.4	▲0.3	▲0.1	▲0.4
10月	▲0.2	▲1.0	▲1.0	▲0.5	▲0.4	▲1.0
11月	▲0.5	▲0.2	▲1.1	▲0.9	▲0.5	▲1.2
12月	▲0.2	▲0.1	▲1.1	▲0.4	▲0.3	▲1.1
12年 1月	0.1	▲0.1	▲0.9	▲0.2	▲0.4	▲1.1
2月	0.3	0.1	▲0.6	▲0.2	▲0.3	▲1.1
3月	-	-	-	▲0.1	▲0.3	▲1.0

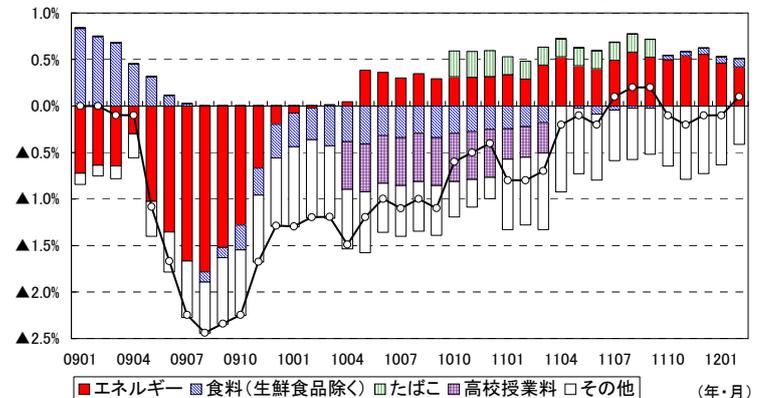
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳をみると、電気代（1月：前年比6.6%→2月：同6.9%）の上昇幅は若干縮小したが、ガス代（1月：前年比4.9%→2月：同4.7%）、灯油（1月：前年比7.1%→2月：同4.3%）、ガソリン（1月：前年比4.6%→2月：同3.4%）の上昇幅が縮小したため、エネルギー価格の上昇率は1月の前年比5.7%から同5.2%へと縮小した。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比0.4%（1月：同0.3%）と5ヵ月連続の上昇となった。調理食品が前年比1.1%と10ヵ月連続の上昇となり、比較的高めの伸びを維持している。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.42%（1月は0.46%）、

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解



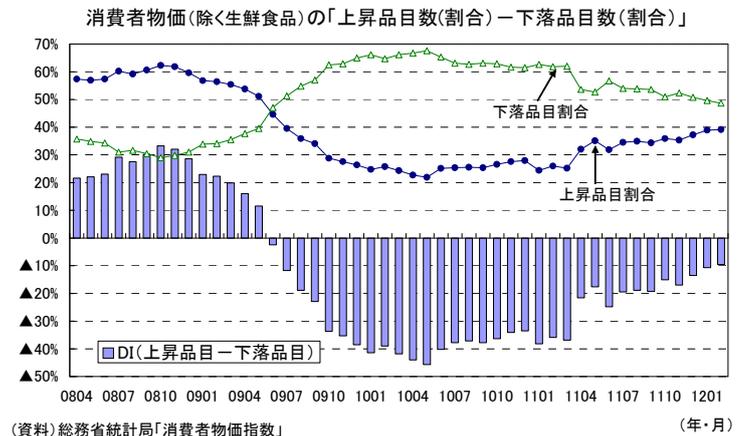
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

食料品（生鮮食品を除く）が 0.09%（1 月は 0.07%）、その他が▲0.41%（1 月は▲0.63%）であった。

2. 物価上昇品目数が3ヵ月連続で増加

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、2 月の上昇品目数は 205 品目（1 月は 204 品目）、下落品目数は 255 品目（1 月は 260 品目）となり、上昇品目数は 3 ヶ月連続で増加した。

上昇品目数の割合は 39.1%（1 月は 38.9%）、下落品目数の割合は 48.7%（1 月は 49.6%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲9.5%となった。マイナス幅は前月の▲10.7%から縮小したが、依然として下落品目数が上昇品目数を上回っている。コア CPI 上昇率はプラスに転じたものの、物価上昇の裾野が広がっているわけではない。



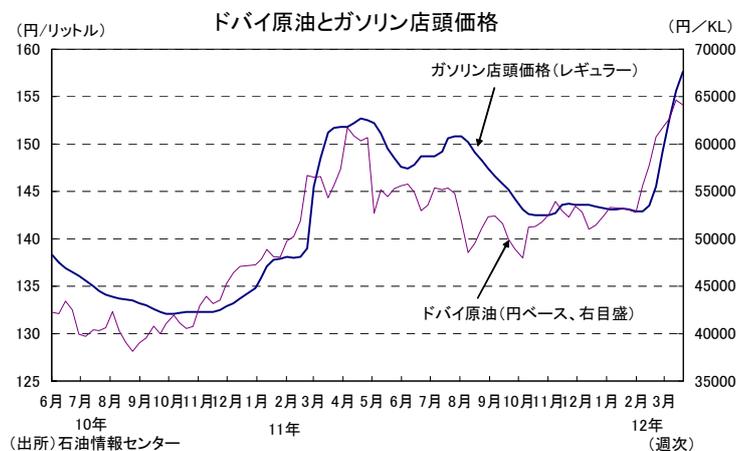
3. コア CPI は小幅なプラスが続く見込み

12 年 3 月の東京都区部のコア CPI は前年比▲0.3%（2 月：同▲0.3%）となり、下落率は前月と変わらなかった。事前の市場予想（QUICK 集計：▲0.3%、当社予想は▲0.2%）通りの結果であった。エネルギー価格は 2 月の前年比 8.8%から同 8.5%へと上昇幅が若干拡大した。食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲0.2%（2 月：同▲0.2%）と 11 ヶ月連続の下落となり、上昇基調が定着しつつある全国とは対照的な動きとなっている。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.46%（2 月は 0.48%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.04%（2 月は▲0.04%）、その他が▲0.75%（2 月は▲0.74%）であった。

エネルギー価格の上昇率（全国 2 月、東京 3 月）は前月よりも縮小したが、原油高、円安を背景にガソリン、灯油の店頭価格はこのところ急上昇しており、電気代、ガス代も高止まりが続くことが見込まれる。

エネルギー価格の上昇を主因としてコア CPI 上昇率は当面小幅なプラスで推移することが予想される。



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。